

比治山大学

子ども発達教育学科

ニュースレター6号

■卒業論文の研究

子ども発達教育学科では、3年の後期から1年半をかけて、学生の皆さんが自分の関心ある内容をもとに、学科教員と一緒に卒業論文に取り組みます。

今回の号では、2つの研究室について卒業論文への取り組みをご紹介します。

1 理科教育研究室

子どもたちがどのように自然を学ぶか、どうすれば楽しく学びを深めることができるかを研究しています。今年度後期に理科教育研究室に所属した沖元さん（3年 崇徳高等学校出身）は、広島湾の海中の生態系を調査し、それを子どもたちの学習にどう活かすことができるかについて、研究を始めています。

研究室では毎月1～2回、広島湾内のプランクトンを調査しています。この調査では、晴れた日に湾内4カ所でプランクトンを採取し、大学に持ち帰って顕微鏡で観察をしています。冬の時期は海水温が10℃前後になりますが、プランクトンは一年中活発に活動をしています。この調査を重ねながら、広島湾の海の生物をどう子どもたちに伝えるか、研究を進める予定です。



採集の様子と顕微鏡で観察できるプランクトン（2月）

2 英語教育研究室

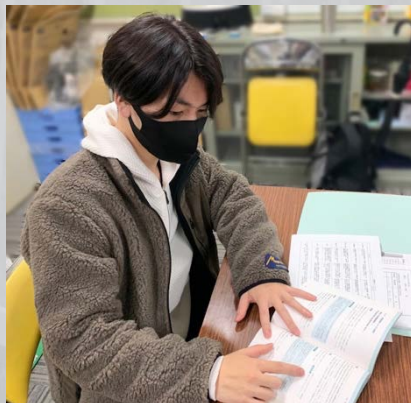
保育園や小学校では、外国語の学習が始まっています。英語教育研究室では、「外国語活動」や「外国語科」を中心とした授業づくりと、それらに関連した課題について研究をしています。また、保育士・教員の英語運用能力について、具体的に必要とされている能力を保育園や小学校と連携し、学習の方法を提案しています。

10号館



HIJIYAMA

昨年度に英語教育研究室に所属した生田さん（4年、広島なぎさ高等学校出身）は、広島市が使用している小学校外国語科の教科書と中学校英語科教科書で扱われている「語彙（ごい）」に注目し、定量的観点とコミュニケーション能力につながる音声的観点からその実用性を検証した研究を進め、1月に研究の成果を発表しています。



研究室で研究を進める生田さん

■実習を終えた在学生の声

学科では、3年次に小学校の教育実習と保育所の保育実習を実施します。今号では、前号に引き続き、保育実習を体験した学生の声をお届けします。



実習を通して最も気を配ったことは、子どもたちに対しての言葉がけでした。年齢に合った言葉がけをしたり、子どもたち一人ひとりの性格にあわせた言葉がけをしたりするのが大変でした。でも、子どもたちは本当に可愛く、実習先の保育士の先生もとても優しくかったので、どの実習も自分にとって大きな学びになりました。

3年 迫本真依（広島県、比治山女子高等学校出身）

実習では、新しい環境での生活や、毎日の実習活動を記録する日誌の作成など、慣れないことも多く大変でしたが、子どもたちの笑顔は本当に可愛く、毎日が充実した時間でした。

保育実習では、一人ひとりの子どもを理解することや、子どもたちの発達に合わせた対応など、実際に保育の現場で子どもたちと関わることで、大学で学んだ内容を深めることができ、自分がめざす保育士への学びを確かにするよい経験ができました。

3年 川嵯乃愛（広島県、呉高等学校出身）



■卒業予定者の進路先内定状況（速報）

学科の卒業予定者の進路先がほぼ確定しました。2月10日現在、就職希望者に対する就職内定者の割合は96%となり、残る学生も就職採用試験の結果待ちとなっています。学生のみなさんの努力が確実に実を結んでいます。



6号館入口



HIJIIYAMA